

# 第51回(2021年度)建築物環境衛生管理技術者試験の合格基準及び正答一覧

2021年11月4日

## 1. 合格基準

次の条件を満たした者を合格とする。

科目毎の得点が各科目の合格基準点(各科目の満点数の40%)以上であって、かつ、  
全科目の得点が全科目の合格基準点(全科目の満点数の65%)以上であることとする。

科目	配点	合格基準点(合格基準)
建築物衛生行政概論	20	8点以上(40%以上)
建築物の環境衛生	25	10点以上(40%以上)
空気環境の調整	45	18点以上(40%以上)
建築物の構造概論	15	6点以上(40%以上)
給水及び排水の管理	35	14点以上(40%以上)
清掃	25	10点以上(40%以上)
ねずみ、昆虫等の防除	15	6点以上(40%以上)
合計	180	117点以上(65%以上)

合格条件:合格基準点(合格基準)をすべて満たしていること

## 2. 正答一覧

建築物衛生行政概論	1 3	2 5	3 1	4 4	5 2	6 5	7 2	8 1	9 5	10 4	11 3	12 3	13 1	14 4	15 4	16 5	17 4	18 1	19 2	20 3					
建築物の環境衛生	21 5	22 1	23 5	24 1	25 3	26 3	27 4	28 1	29 3	30 2	31 2	32 1	33 2	34 3	35 3	36 2	37 5	38 4	39 1	40 4	41 4	42 5	43 2	44 3	45 5
空気環境の調整	46 3	47 2	48 1	49 5	50 5	51 2	52 3	53 3	54 4	55 5	56 5	57 3	58 1	59 5	60 1	61 5	62 5	63 3	64 2	65 3	66 1	67 1	68 2	69 3	70 5
	71 2	72 4	73 5	74 3	75 4	76 5	77 4	78 2	79 1	80 2	81 2	82 4	83 1	84 2	85 2	86 3	87 4	88 4	89 1	90 4					
建築物の構造概論	91 4	92 4	93 5	94 1	95 3	96 ○	97 5	98 3	99 2	100 3	101 1	102 2	103 3	104 2	105 4										
給水及び排水の管理	106 5	107 4	108 3	109 4	110 3	111 4	112 5	113 2	114 4	115 3	116 1	117 4	118 2	119 2	120 5	121 3	122 2	123 2	124 5	125 4	126 1	127 2	128 3	129 1	130 3
	131 4	132 1	133 3	134 5	135 3	136 4	137 2	138 1	139 5	140 5															
清掃	141 5	142 1	143 1	144 1	145 2	146 2	147 3	148 2	149 4	150 5	151 2	152 4	153 4	154 5	155 3	156 5	157 4	158 1	159 3	160 5	161 5	162 2	163 1	164 2	165 4
ねずみ、昆虫等の防除	166 1	167 3	168 5	169 3	170 3	171 5	172 4	173 4	174 5	175 5	176 2	177 1	178 4	179 3	180 2										

○:問96は、全員正解とした。(次ページ参照)

上段:問題番号

下段:正答番号

問題の内容及び正答に関するお問合せには、お答えできません。

### ●お知らせ

個人情報の保護に関する法律に基づき、ご自分の得点結果の開示請求をすることができます。請求方法は、(公財)日本建築衛生管理教育センターのホームページ(アドレス <https://www.jahmec.or.jp/>)の「国家試験Q&A」の「自分の得点を知ることができますか?」のページから「建築物環境衛生管理技術者試験の得点について」をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ手続きを行ってください。本人確認に必要な書類としては、「第51回(2021年度)試験の受験票のコピー」を提出してください。住所変更があった場合は、その旨をご記入ください。

第51回(2021年度)建築物環境衛生管理技術者試験  
(2021年10月3日実施)における正答の取扱いについて

問題96 建築物とその構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 免震構造では、アイソレータを用いて振動エネルギーを吸収し、振動を小さくする。
- (2) 耐震補強には、強度や変形能力を高める方法がある。
- (3) 制振構造において、建物の揺れを制御・低減するためのダンパに座屈拘束ブレースなどが用いられる。
- (4) コンクリートの打設時間の間隔が長くなると、コールドジョイントが生じやすくなる。
- (5) 構造設計に用いる計算法には、保有水平耐力計算、限界耐力計算、許容応力度等計算がある。

採点上の取扱い

全員を正解として採点する。

理由

正答となる選択肢が無いため。